

学校保健委員会だより

平成26年8月7日

7月24日（木）、本校において学校保健委員会が開かれました。

学校医・学校歯科医・学校薬剤師・PTA 会長・副会長さんが来校され、本校の生徒の健康課題について意見をいただきました。

副校長の、「教育活動のもとになる体力健康教育に必要な会であり、皆様の意見を出し合い学校教育に反映させていただきたい」という挨拶で始まりました。

○報告

課題としては、欠席者数・痩せている生徒数の多さがある。保健室来室者は、頭痛・腹痛といった症状が多く、悩みを抱えている生徒もあり、話を聞くことで回復して授業に戻る生徒もいる。また、テスト時・テストの返却時は来ない傾向がある。協議の中にも入れるが、手術が伴う怪我が多くなっている。そのことは毎年給付額が上がっている一因である。鳥取県のスポーツ振興センター災害給付金の十分の一は、八頭高校に給付されている。生徒保健委員会活動について、熱中症予防のマイボトル・マイボトル運動が定着化している。最後に性教育の本年度の取り組みについて紹介した。

学校医より）

肥満傾向生徒の指導も大切である。

学校歯科医より）

- ・ 中学校の時から口腔状態はよい。
- ・ 歯列に問題のある生徒もあり、受診を勧めている。

学校薬剤師より）

毎年であるが換気の徹底をお願いしたい。

教育相談活動について

心と体の相談を年に3回岸本先生に実施してもらっている。
ケータイによって人間関係のあり方についての捉え方が変わってきているように感じる。



○協議

課題：①けがの発生件数について

スポーツ振興センターの支給額が増えている。入院・手術を要するけが（鼻骨折、前十字靭帯損傷）が増えている。

：②人とのかわりが苦手な生徒が増えてきている。

○質疑

※昨年度の具体的な策はどこまで実践されているのか。

どんな状況で怪我が起きているかを伝え、運動前後のストレッチを充分させる事とアイシングをするよう部顧問に指導しているが、全体に情報を広げるところには至ってない。顧問会で情報を提供していきたい。

※怪我については中学校でも増えてきている。体も変わってきているのではないか。

昨年度体育科から柔軟性が低くなっているということを言われて、それを高める運動を取り入れてくださっているはずです。

※人との関係づくりという点で困難を抱えている生徒もいる。

学校という限られた空間では、難しさもあるのではないか。思いを言葉に出来ない生徒もいる。手紙を書いてもらうという方法もよい。親は、自分の子どもだからなんとかするだろうと思って後回しにしてしまう。問題意識を持って、親にアピールして欲しい。今この時が大事とはっきり伝えて欲しい。

※相談内容について 教員の相談件数が46件というのはい多いように思う。

アドバイスを担任・教科担任が受けに来ているので多くなっている。

※どの部のけが多いのかかわかるのでしょうか。

母体数が違うので、どの部がということは言えませんが、同じ怪我が続く時には話をしている。

※休日の部活動中の怪我について、必要な処置がとれるよう物品使用ができるようにして欲しい。（歯の脱臼の際、保存液が使用できるように）

まとめ

生徒の心身の健康を守る上でも、学校医、家庭、地域、専門機関などの連携をもちながら学校全体として取り組んで行かないといけないと感じています。これからも学校保健委員会が、中心となり、いただいたご意見を健康づくりに生かしていきたいと思います。次回第2回保健委員会は11月27日に行う予定です。